

平成 24 年 3 月 8 日
日本原子力学会新型炉部会

「世界の高速炉開発」講演会を踏まえた意見

- 本講演会では、エネルギー確保に国家戦略を持つ国々が高速炉に強い関心を持ちその開発を進めていること、および高速炉が持続的なエネルギー確保の観点から重要な意義があることが、本講演会参加各国で共有されるとともに、実りある意見交換と討論がなされたと評価する。
- 今世紀後半には 100 億人を超えると予想される人類の生活基盤をなす基幹エネルギーとして、また地球温暖化を防ぐ温暖化ガス排出抑止と両立する発電技術のひとつとして、原子力エネルギーはもっとも現実的で実現可能な選択肢である。
- 原子力発電の燃料であるウランの資源制約がゆえに、高速炉及び燃料サイクル技術の開発・確立は、原子力エネルギーの発電利用を持続可能とするに不可欠な目標である。よって、国際的な枠組みで取り組むべきテーマである。
- 高速炉技術は、原子力の導入を検討している国々において、長期的なエネルギー安定供給を実現しうる手段である。高速炉開発を先導する国々は協力して新興国がその恩恵を受けられるよう、最善を尽くすことが求められる。
- 高速炉は、第 4 世代炉としての至高の安全性を具備すべきであり、当然ながら東北太平洋大地震後の津波による福島第一原子力発電所事故の進展に対しても十分な耐性をもつとともに、同事故の教訓をしっかりと反映し、いささかの課題も残してはならない。
- もんじゅの運転により得られる経験と知見は、我が国のエネルギー安定供給の確固たる基盤を築くものであると評価する。また、もんじゅの技術成果に対する世界各国の期待は大きい。従って、わが国のみならず、世界のエネルギー開発のための公共財として、第 4 世代炉の開発を進める各国の国際的な研究開発拠点と位置付け、有効かつ着実に利用することが国益でありかつ国際貢献となる。
- 高速炉は、将来の様々な不確定性に対する備えとなる我が国のエネルギー確保戦略に欠くべからざる技術である。もんじゅは、その実用化に直結する技術課題を詳らかにし解決の指針を与えるという重要な役割を担うべきである。